# 令和６年第２回江別市総合教育会議

１　日時　令和６年11月18日（月）午後１時30分～午後２時40分

２　場所　公室

３　出席者

（構成員）　江別市長　後藤　好人
江別市教育委員会
教育長　黒川　淳司
委員　須田　壽美江
委員　麓　美絵
委員　新館　忠義
委員　兼子　弘詔

（学校教育支援室）
教育部学校教育支援室長　堂前　敦
教育部学校教育支援室学校教育課長　稲田　征己
教育部学校教育支援室教育支援課長　水口　武
教育部学校教育支援室学校教育課学校教育係長　坂口　匡志
教育部学校教育支援室教育支援課主査　田中　芳隆
教育部学校教育支援室教育支援課主査　細川　晃司

（スポーツ課）
教育部スポーツ課長　松井　正行
教育部スポーツ課スポーツ係長　今井　規裕

（事務局）　教育部長　佐藤　学
教育部次長　新山　千穂
教育部総務課長　山崎　浩克
教育部総務課主幹　鎌田　和仁
教育部総務課総務係長　伊藤　麻美

４　議題
（１）全国学力・学習状況調査の結果について
（２）令和７年度教育施策及び予算に関する意見交換について
（３）子どもの体力・運動能力の向上について

| 会　　議　　録 |
|---|

| | |
|---|---|
| 後藤市長 | 定刻になりましたので、ただいまから、令和６年第２回江別市総合教育会議を開会いたします。<br>本日の議題は、お手元の次第のとおり「全国学力・学習状況調査の結果について」、「令和７年度教育施策及び予算に関する意見交換について」、「子どもの体力・運動能力の向上について」の３件でございます。どうぞよろしくお願いいたします。<br>それでは、議題の（１）全国学力・学習状況調査の結果について、事務局から報告をお願いします。 |
| 稲田学校教育課長 | 議題（１）全国学力・学習状況調査の結果について御説明いたします。<br>資料１の結果概要を御覧ください。はじめに資料の表記について、２「令和６年度の傾向」中、（１）「全国との比較」１行目の「算数」は「数学」の誤りですので、訂正いたします。失礼いたしました。それでは、本資料について御説明いたします。<br>１の江別市における各教科の平均正答率は、網掛け部分に記載のとおり、小学校６年生の国語が68.9パーセント、算数が63.1パーセント、中学校３年生の国語が60.8パーセント、数学が58.1パーセントでございました。２の令和６年度の傾向のとおり、（１）全国との比較では、小学校国語、中学校国語及び中学校数学は全国平均正答率を上回りましたが、小学校算数は全国平均とほぼ同じでございました。このように、学力に関しては全体的に良い結果となりましたが、これはあくまでも市の平均であり、中間層に届いていない、いわゆる伸びしろ層の子供たちもおりますことから、引き続き、児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導、支援を行っていきたいと考えております。<br>次に、資料１別紙を御覧ください。この資料につきましては、要点のみ御説明いたします。１ページ中段、６の調査結果の解釈等に関する留意事項について、まず、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要があります。<br>２ページから５ページまでは、各教科の結果について記載しており、教科ごとに、正答数の分布グラフ、江別市、北海道、全国の平均正答数と平均正答率及び学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率の表を記載しております。<br>６ページから10ページまでは、質問紙調査の結果について記載しており、１「児童・生徒質問紙」では、児童生徒が生活習慣や学習習慣等について回答した「生活習慣」など７項目について特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組を四角で囲んだ部分に記載しております。なお、表中の増減比につきましては、５ポイント以上プラスの場合は太字で、５ポイント以上マイナスの場合は網掛けで表示しております。２「学校質問紙」は、学校の教育活動等について学校が回答したものであり、「学習規律」など７項目について学力向上等の取組の中から特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取組等を四角で囲んだ部分に記載しております。<br>次に、資料２を御覧ください。この資料は、平成26年度から令和６年度までの学力調査結果について、全国平均をゼロとして、国語及び算数、数学の平均正答率を比較した値をグラフ化し、併せて江別市の教育施策のうち、学校教育関連の主な取組を表示したものでございます。上段は小学校の推移であり、点線が国語、実線が算数となっております。このグラフから、江別市の小学生は、算数より国語を得意とする傾向が見られます。また、令和以降は国語、算数ともに全国平均を上回る状況が続いており、全体的に学力の向上が図られていることがうかがえます。<br>続いて、中学校のグラフを御覧ください。中学校では、小学校ほどはっきりとした傾向ではありませんが、若干、国語より数学を得意とする傾向が見られます。なお、全体としては、平成から令和にかけて、ほぼ一貫して全国平均を上回る状況となっております。<br>この10年間、江別市では、電子黒板の整備やタブレット端末の整備、小中一貫教育の導入やＡＩドリルの導入など様々な取組を進めてきましたが、今後においても、引き続き児童生徒の学習環境の整備に努めてまいりたいと考えております。<br>以上です。 |

| | |
|---|---|
| 後藤市長 | ただいま、本年度の学力調査の結果報告のほか、過去10年間の調査結果の推移について説明がありました。本市の子供たちの学力の状況や児童生徒質問紙の結果などについて、委員の皆様から御意見や御感想等はございませんか。 |
| 須田委員 | 江別市の子供たちは、毎年、学力調査結果で全道平均、全国平均を上回っていて、とてもすばらしいと思います。子供たちの頑張りと先生方の指導の賜物だと思います。今回、小学校の算数で少し残念なところもありましたが、ほかは全てとても良い成績でうれしく思っています。中学校の数学のグラフがいびつな形になっていますが、国語のような形が理想ではないかと思います。<br>また、どの教科も基礎学力の定着がとても重要だと思っています。古い表現ですが、いわゆる「読み、書き、そろばん」、国語では読解力、算数、数学では計算力がとても大事だと思います。それが苦手な子供には繰り返し復習が必要だと思いますので、効果的な取組をお願いします。<br>ＩＣＴを活用する機会が増えてきていますが、書く機会が減らないようにしてほしいと思います。自分の意見などを書くこと、書く能力の向上も大事だと思っていますので、その指導もしっかりお願いしたいと思います。小中一貫教育が行われていますので、「計算が苦手だ」、「読むことが苦手だ」といった小学生については、中学校への進学時に引継ぎを行い、中学校でも読むこと、書くこと、計算することなどを重点的に指導していただきたいと思います。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、須田委員から中学校の数学のグラフだけが少しいびつな形になっていると指摘がありましたが、その理由はわかりますか。 |
| 稲田学校教育課長 | 確かに中学校の数学が、フタコブラクダのような形になっていますが、ほかの教科と比べて、学力層が真ん中の中間層の子供たちが成績の良い定着層に移行して、もう一つコブができたものと捉えております。中学校の数学については、全国平均を大きく上回る数字となっていますので、ある学校に「何か特別なことに取り組んだのか」など、その理由を聞いてみましたが、「特別なことを行ったわけではなく、基礎基本の計算を一生懸命やった世代の子たちです」という回答でしたので、須田委員のおっしゃるとおり、地道な基礎基本を学ぶ取組が重要だと理解したところです。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>そのほか、ございませんか。 |
| 新館委員 | 須田委員の発言と重複しますが、全国平均を上回っているということで、これは江別市の教育現場がすばらしいものだということがはっきりわかる結果だと感じております。小学校の算数が全国平均をやや下回っていますが、ほんの僅かな差ですので、悲観するほどではないと思います。これらの結果は、教育者の努力の賜物であることはもちろんですが、地域のボランティアの皆様の様々な学習支援に関する協力があってこそだと思います。今後、その方々の協力が十分に報われるような体制の構築も必要ではないかと思っております。交通費程度は支給しているようですが、決して、その方々に自己負担が生じることのないような、長く御協力いただけるような配慮をお願いしたいと思います。<br>また、今後、その方々の後任となる新たなボランティアの募集など、いろいろな課題が出てくることが想定されます。子供たちのためにもスムーズな引継ぎを行い、子供たちの学習に空白が生じないような環境を確保していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、新館委員からボランティアの方々への配慮という発言がありました。これについては、私どもとしても考えていかなければならないことだと思います。今後、ボランティアを長期的に続けられる環境の整備が必要になってくると思いますので、なんらかの |

| | |
|---|---|
| | 形で、少し検討を進めていただきたいと思います。<br>　そのほか、ございませんか。 |
| 須田委員 | 　子供たちの自尊意識について、自己肯定感も少しずつ上向いていると思いますが、将来の夢や目標が、小学校から中学校に進む中で少なくなってくる傾向があると思います。中学生が小学生より夢や目標を持っている割合が少なくなっている原因には、小学生のときの目標が中学生になって変わったり、諦めたりするということもあるのかと思います。中学生になっても、小学生のときの目標に向かってそのまま頑張れるように、また、目標を変えた子供たちに対しても、それに向けて頑張れるような支援が必要だと思います。目標を無くさないようにしたいと思っています。小中一貫教育が行われていて、小学生のときの子供たちに「こんな目標があった」ということはわかっていると思いますので、それを達成できるよう引き続き指導していってほしいと思います。 |
| 後藤市長 | 　ありがとうございます。<br>　目標が無くなってしまうと何をしてよいのかわからなくなってしまいますので、やはり目標を持つこと、無くさないということが重要だと思います。<br>　それでは、全体を通して、黒川教育長から今回の分析結果等を踏まえた見解や、今後に向けたお考えなどなどをお伺いしたいと思います。 |
| 黒川教育長 | 　まず、資料２について、10年間の学力調査結果の推移のグラフの左側、５年以上前まで、江別は「小学生はそれほど立派とは言えないけれども、中学生になると伸びるね」、「小学生のうちは多少伸び伸び暮らしても、中学校に行ったらしっかり勉強して立派だね」という捉え方だったものが、徐々に小学校もすごく頑張るようになって、グラフの右側のように、小学生も全国以上の結果が当たり前という状況になってきていることを大変うれしく思います。江別の子供たちは、資料１の９ページ上段にある「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合が、全国よりもプラス6.2、8.6、12.4ポイントととても高いです。例年、１割から２割弱の先生方が転入してきますが、その先生方が「江別の子って、落ち着いているよね」などと、子供たちがすごく落ち着いて授業に臨んでいる様子に転入してきた先生が驚くということがあることから、そのような文化がそれぞれの学校の中にあるのだろうと感じますし、それが、このような成績につながっている面もあるのではないかと感じているところです。<br>　また、全道、全国的に、子供たちのためのタブレットが導入されていますが、江別のような高速のＷｉ－Ｆｉが完備されていない自治体が多くありまして、授業中、一斉に子供が接続すると固まって動かなくなるなど、そのようなことが頻繁に起きることで、子供も先生も「もういいよ」、「使いたくないよ」と感じてしまう事例がたくさんあるそうです。この状況の中で、江別はしっかり環境を整備してくれていて、そのようなことが全くなくスムーズに操作できていることや、そのほか、ＡＩドリルについて市で補助いただいたり、自動採点システムにより、丸付けの時間を節約して、教員が子供と過ごす時間を増やせるようにといった御配慮をいただいていることに対する先生方からの感謝の声を耳にしています。このような環境整備を市として取り組んでくださっていることが、各学校での努力にもつながり、子供たちの頑張りにもつながって、安定した成果につながっているのではないかと私は感じております。<br>　実は、先ほど話題に上がりました中学校の数学については、今回、全国平均よりかなり上の学校が４校もあるほどすごい結果でした。小学校のうち、すばらしい成績だった学校からは「子供たちが素直なんですよ」、「子供同士の仲が良くて、先生との関係もすごく良いクラスなんですよ」といった声がちらほら聞かれますが、このことが日頃の勉強に向かう姿勢にもつながっていて、このような成果につながっている面があると思います。先ほど自己肯定感の話もございましたが、子供たちが日々、勉強を「面白い」、「頑張れば認められる」、「褒めてもらえる」と感じる中で、学習に立ち向かっていく気持ちも高まっていく。単に点数や知識だけが増えていくということではなくて、じっくり考えたり、時には、つらくても頑張ったりなど、そういう力を江別の子たちが身に付けてきているのではないかと思いますので、子供同士の人間関係、先生との信頼関係を育む中で、自分のよさに気付きながら頑張れる子供を育てられるように努力したいと思いますし、その過程において |

| | |
|---|---|
| | も、引き続き、基礎、基本の学力をしっかり身に付けられるように努めてまいりたいと思っているところでございます。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、黒川教育長をはじめ委員の皆様から様々な御意見をいただきました。黒川教育長からは江別は教育環境が整っているという発言がございました。その点につきましては、学校施設、設備の整備に係る部署が頑張って、持っている予算を目一杯使って一番良いものをということを考えながら学校の施設、設備の整備を行ってくれているおかげだと思います。資料２で示しているように、これまで江別市ではＩＣＴ機器の整備を行ってきましたし、小中一貫教育の導入などの取組も行ってきたところです。江別の子供の学力については、とても高い水準を維持しておりますが、今後も、これらの取組が学力向上の一助となるように、より充実させていくことが大切だと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。<br>以上で、本件を終結いたします。<br>次に、議題の（２）「令和７年度教育施策及び予算に関する意見交換について」に移ります。<br>市では、10月に次年度に向けた予算編成方針の説明会を実施いたしました。皆様のお手元の資料３のとおり、次年度の予算編成について職員に説明したところでございます。翌令和７年度は、第７次江別市総合計画の２年次目に当たりまして、まちづくりの基本理念として「子どもの笑顔があるふれるまち」など５つの柱を掲げているところでございます。この基本理念に基づいた政策を効果的に推進するための「えべつ未来戦略」では、「子どもが主役のまちをつくる」といったテーマを掲げているところでございまして、これらに関連する施策を重点的、集中的に推進していく必要があると考えております。また、未来戦略と、私の選挙のときに示しました「８つの課題」への対応は、今後のまちづくりに向けて極めて重要と考えておりまして、実効性のある予算編成をしていきたいと思っています。ただ、原油高、物価高騰が続いておりまして、この影響が非常に大きいものとなっています。厳しい財政状況が見込まれるところですが、私どもは最小の経費で最大の効果を求められるということもあります。このような点を常に意識しながら予算を作成していかなければなりませんし、事業を進めていかなければならないと考えております。<br>特に、教育に関しては、小中学校における冷房設備の整備などが緊急度の高いものと考えておりまして、計画的に進めていかなければならないと思っております。<br>これらの事情から、予算の配分については、重点的に配分するところは重点的に、少し待っていただかなければならないところは待ってもらうということが出てくるかもしれませんが、しっかりバランスを取りながら進めていきたいと思っております。<br>本議題につきましては、この予算編成方針の資料とは別に事務局からの資料が用意されております。本日は、次年度の教育施策及び予算について、特に学校に対する人的支援の取組に焦点を当てて、皆様と意見交換をしていきたいと思います。はじめに事務局から説明をお願いいたします。 |
| 稲田学校教育課長 | 議題（２）令和７年度教育施策及び予算に関する意見交換について、まず、学校教育課が所管する人的支援の取組について御説明いたします。<br>資料４－１、１ページを御覧ください。はじめに、サポート教員については、退職教員等教員免許の保有者であり、ティーム・ティーチングや少人数指導、放課後等における補充的学習支援を行っております。報酬、謝礼につきましては、昨年度までは日額2,000円を支給しておりましたが、本年度から新たに交通費相当分として700円を上乗せし、2,700円を支給しております。<br>次に、地域ボランティアについては、学校からの支援要請に応じて各教科における支援や補助を行うボランティアであり、近年は外国籍児童生徒の支援や補助に係るニーズが高まってきております。報酬、謝礼につきましては、本年度から交通費相当分として700円を支給しております。<br>次に、２ページを御覧ください。学生ボランティアについて、本年度は市内４大学と札幌市内の２大学の学生が、各教科指導等における支援や補助を行っております。なお、全員が将来、教員を目指しているとのことです。報酬、謝礼につきましては、本年度から交 |

| | |
|---|---|
| | 通費相当分として700円を支給しております。<br>　次に、部活動指導員については、部活動地域移行に向けた取組として、本年度から３校、３種目に導入したものであり、現在は休日の活動においてのみ実技指導や大会引率等を行っております。報酬、謝礼につきましては、国の補助金支給基準に基づき、時給1,600円を支給しております。<br>　以上、学校教育課では、多くの方々の御協力をいただき、様々な形で児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導、支援を行っているところですが、今後も学校のニーズに応えていけるよう人的支援の更なる充実に向け、予算、人材の確保等に努めてまいりたいと考えております。<br>　以上です。 |
| 水口教育支援課長 | 　続いて、教育支援課が所管する人的支援の取組について御説明いたします。<br>　資料４－２、１ページを御覧ください。はじめに、特別支援教育支援員Ａと、その下の欄の支援員Ｂについて、支援員Ａは、特別支援学級の児童生徒に対する生活介助を行う週29時間勤務の支援員であり、支援員Ｂは、通常学級の児童生徒の支援に係る教諭の補助を行う週19時間勤務の支援員でございます。<br>　次に、スクールカウンセラーについては、各小中学校に派遣し、児童生徒のカウンセリングや保護者の援助、助言などを行う専門職であり、主に北海道の予算で行う事業でございます。なお、本年度から市の単独の予算を活用して、小学校に対する派遣時間を年間４時間から40時間に増やすこととし、これに伴いカウンセラーを４名増員して、９名で支援に当たっております。<br>　次に、２ページを御覧ください。スクールソーシャルワーカーについては、様々な課題を抱える児童生徒や保護者に対して福祉的な働きかけを行う支援員であり、各ワーカーが中学校区ごとに担当校を持ち、学校からの要請に合わせて支援を行っております。なお、昨年度までは３名体制でございましたが、支援を要する児童生徒の増加などを受け、本年度から１名増の体制としております。<br>　次に、心の教室相談員については、児童の悩みや困りごとの相談を受けたり、話し相手になったりするため、全小学校に配置されている相談員であり、週２回、１日４時間程度の活動を行っております。延べ相談件数は年々増加しており、令和５年度実績では、１万4,000件を超える相談、対応件数となっております。<br>　最後に、登校サポーターについては、学校に行くことはできても教室に入ることができない児童生徒のため、各小中学校が校内に設置する登校支援室において、自習支援のほか健康確認などを行う支援員であり、週２回、１日３時間程度の活動を行っております。なお、各職の報酬、謝礼等については、その職性に応じて表に記載の額を支給しております。<br>　以上、教育支援課では、様々な形で学校の人的な支援を行う事業を所管しておりまして、本年度における支援員は総勢で119人でございます。今後も、支援を要する児童生徒や保護者などの支援の充実に向けて取り組んでいくとともに、これから大きな課題となることが明らかな人材確保策についても検討を進めてまいりたいと考えております。<br>　以上です。 |
| 後藤市長 | 　ただいま、人的支援の主な取組について説明がありました。学校現場においては、多くの方々の協力を得た上で、児童生徒の学習サポートや相談支援など様々な教育施策を推進してきているところでございます。委員の皆様には、地域住民あるいは保護者の立場から関心が深い取組について、その重要性や課題などの御意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。 |
| 麓委員 | 　外部の多くの方々の力を借りて、様々な形で子供たちをサポートしていただいていることに深く感謝しています。特に心のケアに力を入れていただいていること、子供たちが保護者にも相談できないことなどを相談する機会が一つでも増えることは、保護者としてありがたいことだと思っています。先生の負担が減ることはもちろんですが、子供たちが担任の先生だけでなく、多くの大人と触れ合い関わりを増やすことで、たくさんの愛情を受けることができると思いますので、子供たち一人一人の自己肯定感を高めることにもつながっていくのではないかと感じました。 |

| | |
|---|---|
| | 外部の方が関わる取組のうち、中学校の部活動の在り方については、地域移行であったり、放課後の部活動のみの近隣校への参加など様々な在り方をいま委員会を立ち上げて検討を進めていただいていると聞いています。本年度から取組が始まったばかりの部活動指導員の方が現在４名いらっしゃるということですが、本格的な少子化が進む前に基盤を固めていただくためにも、専門知識と経験のある指導者の確保は必須ではないかと思います。自身で指導を希望される熱意のある先生もいらっしゃると思うので、先生とともに子供たちにスポーツ、音楽、芸術などの楽しさを教え、将来の視野を広げるお手伝いをしてくださるような人材を確保していただいて、地域に関係なくどこに住んでいても、子供が自分のやりたいことを部活動として選択して参加できる環境を是非整えていただきたいと思います。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、麓委員から部活動指導員に関していろいろと御意見をいただきましたが、事務局で補足できることはありますか。 |
| 稲田学校教育課長 | 御発言のとおり、本年度から部活動指導員を導入しまして、現在、４名の指導員が活動しておりますが、人数に関しましては、まだまだ足りないという状況でございます。市内中学校８校で約80の部活動がありますので、これを全て顧問の先生を指導員に置き換えるとなると単純計算で80名必要ということになりますが、そこまで人材を確保できるかという点については不透明な状況です。80名が難しいとしても一定程度の人数を確保しないと地域移行にはつながらないと思いますので、担当課としましては、今後、指導員の増員に向けた予算の確保や、人材確保に努めていきたいと考えております。 |
| 後藤市長 | 部活動が80あるという説明があって、そんなにあるのかと驚きましたが、担当課で人材確保等に努めるということでしたので、よろしくお願いします。<br>そのほか、ございませんか。 |
| 兼子委員 | 資料を拝見しまして、また、説明を聞いて、人的支援により多くの協力をいただくことで子供たちが学習に集中できているのではないか、学力の向上にもつながっているのではないかと感じています。今後も手厚い取組となるよう願っております。特に新しく始まったものについては、先ほどの部活動指導員の例もありますが、人数が足りないという課題もあると思うので、力を入れていただきたいと思います。<br>資料４－２のこれまでの経過を見ると、需要はとても増えていると思います。それに対する配置人数については、現状、十分足りているとは思いますが、希望人数と言いますか「このくらい配置できたら助かります」という目標があれば参考に伺いたいと思います。 |
| 水口教育支援課長 | 教育支援課では、様々な角度から学校への支援、人的な支援を行っているところでございます。目標という意味においては、人的支援に関しては全ての学校に専門の支援員が１名ずつ配置されている状況が理想的だと思っております。<br>教育支援課の取組に関しては、大変多くの方々に御活躍いただいているところでございますが、人的支援という面に特化すると更に体制を充実させていく必要があるという思いがある一方で、先ほど御説明したとおり、今後、人材不足が更に進んでいくことが見込まれておりますので、人員体制の充実と人材の確保、この二つの課題を大きな柱として、そこを見据えながら取り組んでまいりたいと考えているところでございます。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>人的支援の施策については、以前の総合教育会議の中でも、度々、人材確保の課題が話に上がっている状況でございます。これらの取組は児童生徒の支援のみならず、教職員の働き方改革に関しても重要な役割があると思っております。黒川教育長から、これまでの取組に対する学校現場の声、あるいは今後に向けた考え方などをお聞かせいただきたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| 黒川教育長 | 先ほど、資料４－１で学校教育課としての人的支援、資料４－２で教育支援課としての人的支援ということで、両方の面から御説明いただきました。どの取組も学校からものすごく感謝されています。まず、学校教育課のサポート教員に関しては、実施されていない、あるいは５名程度の自治体もあります。その中で、江別は33名配置されていて、しかも平成26年から継続実施しています。江別が最初に始めたものですが、これをずっと続けてくれていることに対して、江別の教員からは「すごくありがたいよね」、「なかなか先生に聞きにくい生徒がサポート教員に聞きに行ってくれるんだよね」など、とても役立っているという声をよく聞いております。また、地域ボランティアの皆様にも多岐にわたって活動いただいており大変感謝しているところです。学生ボランティアについては、江別には４大学１短大がありますので、更に広がることを期待しています。その活動の姿を見ながら中学生がまねをして、「夏休みに私たちが小学生を教えるよ」といった事例も見られているところです。部活動指導員は、管内的にいうと、まだ江別は若干少なめという状況で、なんとかもう少し増やしていきたいと思っているところです。先月、スポーツ庁が部活動の地域移行についての大きな新しい見解を出しましたので、学校も各教育委員会も少し戸惑っているところですが、それに合わせて展開していかなければならないと思っております。<br>次に、教育支援課については、まず、特別支援教育支援員ＡとＢ、これは特別支援学級の支援員と通常学級の支援員の違いです。私は毎年、道教委あるいは国に「これをなぜ市町村に任せるんですか」、「国は必要ないと思っているんですか」ということをお尋ねしていて、常に「もう少し市町村を応援すべきではないですか」という意見を述べさせていただいているのですが、ほぼ９割方、市がお金を出している状況でございます。特別支援学級の子供たちを本当に一生懸命に支えてあげようとする江別のスタンスが、そういうところに端的に表れていて、うれしく思っております。また、スクールソーシャルワーカーについては、学校と保護者との間に、いつもトラブルが起きているというわけではありませんが、保護者が学校に相談しにくいようなことや、「ちょっと行きしぶって不登校の傾向ある」といった相談などに対して、スクールソーシャルワーカーが、時には、保護者と何度も何度も話をしたり、学校との間に入って話をしたりしています。４名も配置している自治体は、近隣にはありません。このスクールソーシャルワーカーが夜、何時になっても保護者や、学校と一緒に話をしてくれるので、各学校から「スクールソーシャルワーカーのおかげで保護者との関係が良好に保てました」という感謝の声が本当にたくさん届いていて、このような良い仕事をしてくれる方が配置されていることに、心から感謝を申し上げます。表の最後の登校サポーターについては、各学校で登校支援室を設置しておりますが、空き時間のある先生が少なく、教頭先生と養護教諭だけで対応していると保健室に子供が来たときに対応できないということで、どうしても人手が足りないとなったときに、すぐに、市がこの登校サポーターを雇ってくださった経緯があります。この取組については、全道から私のところに何回も電話がかかってきて、「どういう人を雇ったんですか」、「何時間ぐらい雇っているんですか」、「各学校で毎日勤務できているんですか」と、いろいろと質問されます。「すぐにそういう取組ができてすごいですね」と言っていただけるのは、市のしっかりとした対応によるもので大変うれしく思います。<br>さらに、資料には載っておりませんが、江別には医療的ケアの必要な子が数名おりまして、一般的には、通常の学校に入学することはなかなか難しいですが、江別では看護師を雇って対応してくれています。通常の学校に入学して看護師さんが日常的なお世話をしているということで、この取組についても、全道各地から「どこから看護師さんを見つけてきたんですか」、「すごく費用がかかると思いますが、大丈夫なんですか」など、いろいろな質問をいただいているところです。このように一人一人の子供たちのことを考えて人的支援をしてくださることを大変うれしく思っているところです。<br>昨年度も、教育部に対する予算については、非常に大きな割合で恐縮するほどでございましたが、引き続き、このような形で子供たちのために頑張ってくださると大変うれしく思いますので、よろしくお願い申し上げます。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>次年度の教育施策については、今後、教育委員会でも更に精査されるものと思います。私としても様々な政策の中において、教育施策は大変重要であると考えております。教育 |

| | |
|---|---|
| | は、私たち大人が子供たちに残せる財産の一つだと思っています。本日いただいた御意見を参考にしながら、予算編成を進めてまいりたいと考えております。<br>　以上で、本件を終結いたします。<br>　次に、議題の（３）「子どもの体力・運動能力の向上について」に移ります。<br>　まずは、江別の子供の体力等の状況と、体力、運動能力向上に向けた取組について、事務局から配付資料の説明をお願いします。 |
| 稲田学校教育課長 | 　はじめに、全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の推移について御説明いたします。<br>　資料５、１ページを御覧ください。本調査では、握力や50メートル走など８種目の実技検査を行っております。この資料はそれら各種目を合計した体力合計点について、全国平均との差をグラフにしたものでございます。上段は小学校５年生のグラフです。調査対象の児童が毎年変わるため一概には言えませんが、令和５年度は男女とも全国平均をやや上回る結果となりました。下段は中学校２年生のグラフです。令和元年度の男子は、全国平均を2.1ポイント上回っていましたが、令和５年度は0.3ポイント下回っております。一方、女子は、令和３年度及び令和５年度に全国平均を1.8ポイント程度下回っており、５年間で全国平均を上回ったことはありませんでした。<br>　続いて、２ページを御覧ください。上段のグラフは、江別市における50メートル走の平均タイムの推移でございます。このグラフからは、小中男女ともに、令和元年度から令和３年度にかけてタイムが遅くなっており、これは新型コロナウイルス感染症の流行による運動機会の減少が要因と思われます。なお、令和５年度における全国の平均タイムとの比較につきましては、上から順に、中学校男子は江別8.18秒、全国8.01秒、中学校女子は江別9.1秒、全国8.95秒、小学校男子は江別9.72秒、全国9.48秒、小学校女子は江別9.98秒、全国9.71秒でございました。50メートル走につきましては、小中男女とも全国平均より遅くなっております。<br>　下段のグラフは、江別市におけるボール投げの投てき距離の推移でございます。ボール投げについては、小学校はソフトボール、中学校はハンドボールを使用しており、ハンドボールのほうがサイズが大きく投げづらくなっております。この種目についても50メートル走と同様に新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けていることがわかります。また、10年間の傾向として、小学校男子の投てき距離が減少傾向にあるようです。なお、令和５年度における全国の平均距離との比較につきましては、上から順に、小学校男子は江別21.53メートル、全国20.05メートル、中学校男子は江別20.3メートル、全国20.4メートル、小学校女子は江別14.03メートル、全国13.22メートル、中学校女子は江別11.49メートル、全国12.43メートルでございました。小学校は男女とも全国平均を上回っておりますが、中学校は男女とも全国平均を下回り、特に中学校女子は全国より１メートル程度短くなっています。<br>　体力調査の結果につきましては、全国との比較も重要でございますが、こうした実測値の経年変化を見ることも重要であると考えております。<br>　次に、資料６「子どもの体力・運動能力向上に向けた取組」のうち、学校教育課所管の２件について御説明いたします。<br>　１ページを御覧ください。１件目は「走り方教室」であり、これは北翔大学の講師が小学校を訪問し、例年５月に全小学校で実施している事業でございます。一言で申し上げますと、速く走るためのこつを学ぶというものでございまして、１「ウォーミングアップ」から、４ページの５「スタート強化練習」に及ぶまで、児童は専門家の指導を受け実際に体を動かして、正しい走り方や練習の仕方を学んでいます。先ほど御説明しましたが、江別の児童生徒の走力は全国平均を下回る状況ですので、この走り方教室につきましては、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えております。<br>　５ページを御覧ください。２件目は、スポーツ普及出前授業「スポトラ」でございます。この事業も北翔大学の協力を受け、例年、小学校６校程度で実施しているものでございます。各学校が全国体力・運動能力調査の結果を踏まえ、自校の課題と考える種目の強化を目指すものであり、例示しております対雁小学校では、持久力と遠投力の強化を希望しております。授業の内容は実施項目に記載のとおり、①準備運動の後、②流れ星飛んだという名称の投てき運動に、走る運動と創作活動を加えた反復運動を行っております。その後、６ページに記載しております、③キック＆ダッシュ、④パットdeスタートダッシュという |

| | |
|---|---|
| | 種目を行っておりますが、いずれも遊びの要素を大切にしながら複合的に体力強化を図る構成となっており、児童が楽しく集中して取り組む様子が見られます。<br>　学校教育課では今後もこうした取組を継続し、児童生徒の体力向上に努めていきたいと考えております。<br>　以上です。 |
| 松井スポーツ課長 | 　続いて、体育施設の小中学生無料化に伴う年度別利用状況について御説明いたします。<br>　資料６、７ページを御覧ください。江別市では、児童生徒の体力が低下していることを踏まえ、子供たちが気軽にスポーツに親しめる場を提供するため、令和６年５月１日から小中学生の体育施設個人使用料を無料にしております。無料で利用できる体育施設は、市民体育館をはじめとする市内４体育館及び飛鳥山公園等のテニスコート等計８施設であり、資料には主な４施設を掲載しております。無料化後の各体育施設の利用状況については、各施設とも利用者数が増加しており、前年度比で平均約63パーセントの増となっております。小中学生別の利用状況については、青年センターのプールは小学生の利用が９割以上でしたが、各体育館の利用割合は、小学生が平均35パーセント、中学生が65パーセントであり、中学生の利用が多い状況となっております。<br>　スポーツ課では、今後も小中学生の利用環境の向上に努めていきたいと考えております。<br>　以上です。 |
| 後藤市長 | 　ただいま、事務局から資料５及び資料６について説明がありました。中学校女子の体力合計点が全国平均を下回っていて、一度も全国平均を超えたことがないということや、全体的に走力が低下していること、走る力がないということが少し気になっているところです。子供たちが、最も体を動かせるこの時期に動かしておかないと、大人になってから、もっと動かす機会が無くなってくるのではないか、その結果、更に高齢になったときに本当に自分の体を動かせなくなるといったことも心配されるところです。黒川教育長は、現在の子供たちの体力、運動能力の状況についてどのように感じていらっしゃいますか。 |
| 黒川教育長 | 　全国学力・学習状況の調査と単純に比較すると、運動面は全国よりも少し落ちているということ、また、江別の子は握力や投げる力はそれなりですが、特に走るのが遅いということが江別の先生方の悩みです。そこで、特に小学校では、例えば、自校のこれまでの記録保持者の名前などを体育館の入口に掲示して、「よし、あの名前の人を抜かすぞ」と思わせたりですとか、反復横跳びや垂直跳びなどについて、記録が取りやすいようにテープを貼って、休み時間に友達同士競い合ったりしながら遊べるような環境づくりなどにも取り組んでくれています。しかしながら、やはり一昔前と比べると「グラウンドで大汗かきながら走っている姿が減ったよね」という声や、家に帰ってから土日も含めて「公園で子供たちが元気一杯遊んでいる姿が減ったよね」といった声は聞こえてきます。<br>　走る部分も含めて、体力が若干落ちてきているように感じるのは、様々な理由があると思います。以前は、学校でも業間体育といって先生も子供も一緒にマラソンのように走ったりしていましたが、子供が休み時間に走っていて急に倒れて救急車で運ばれたなどの事故事例があると、どの学校もこの業間体育をやめてしまうという現状がございます。また、何かと忙しくて、時間がもったいなくて、休み時間に少しでも仕事したいという先生が増えてきて、「子供と夢中になって遊ぶ先生が減ってきているよね」という声もありますし、少し雨が降ったりすると、登下校時に保護者の方が送迎して、歩いて学校に通わない子が増えているということも言われます。時には、子供が休み時間に先生と一緒に苦手な教科を勉強するということもあります。様々な要因が重なって、学校で先生が日常的に子供たちと汗をかいて遊ぶ光景が減っているということが、校長先生方との会話の中でよく話題になるところでございます。もちろん、スポーツ課でいろいろな企画をしてくれたり、資料にあるような北翔大学とのイベントを企画してくれたり、体育館を無料で使用できたりすることもありがたいですが、やはり学校で先生が日常的に子供と走り回るような時間を設けられるような取組が必要ではないかということが、私が最も強く感じているところでございます。 |

| | |
|---|---|
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、黒川教育長から江別の子供たちの体力等について感想等をいただきました。確かに公園で遊ぶ子供たちを見かけないと思うようになりました。そのような中で、学校でも先生方が日常的に子供たちと一緒に汗をかく時間、環境が、いま無くなってきているというお話をいただきました。先生方が子供たちと一緒になって体育館やグラウンドを駆け回るような時間も大切だと思います。子供たちの体力、運動能力につきましては、これまで、この総合教育会議の中では、あまり取り上げてこなかった議題です。この機会に委員の皆様から、子供の体力の現状についての感想や、あるいは体力向上のために市が実施している取組について、御意見、御要望、御感想などをお聞かせいただきたいと思います。 |
| 須田委員 | 私が受け持っているバドミントン教室の子供たちも、走ることはできますが、やはり持久力がないということを強く感じます。上を目指している子供たちは一生懸命走ったりしていますが、「遊びでいいわ」という感じの子供たちに「体育館３周だよ」と言うと、息切れして「もうだめだ」、「もう何もできない」といった反応があります。やはり走る力が弱いということをすごく感じているところです。また、体育館等の使用料を無料にしてくださって子供たちもとても喜んでいますが、少年団活動や部活動を行っている子供たちは、すごく体育館に行く反面、部活動等を行っていない子供は、なかなか足を運ばないのかもしれません。先日、ある女の子に「無料だけど、体育館に行って遊ぶことある」と聞いたら「いや行かない」、「行ったことない」と言うので、「どうして」と聞いたら「面倒臭い」、「体育館なんか行かなくてもいい」という感じの返答がありました。少年団活動や部活動を何もしていない子供たちにとって、一生懸命走ったり、遊んだりする時間は学校でなければ確保できないと思います。先ほど黒川教育長がおっしゃったように、以前は「外に出てみんなで走ろう」、「みんなで縄跳びをしよう」といった時間があったと思いますが、いま、そのようなことを行っている学校はないのでしょうか。休み時間にそういうことをみんなでやるという時間がやはり必要だと思っています。<br>江別で少年団活動を行っている子供たちは、とてもレベルが高くて、すごく一生懸命な子がたくさんいるので、その子たちは問題ないと思いますが、普段運動していない子供たちが運動する機会は、やはり学校でなんとか「休み時間にやりましょう」という形にしてもらわないと確保できないのではないかと感じています。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、須田委員から休み時間に学校全体で運動しているところがあるのかという質問がありましたが、事務局で把握していますか。 |
| 稲田学校教育課長 | 一部の学校だと思いますが、道内で縄跳びの回数を競うイベントなどがありますので、それに向けて縄跳びを行っている学校があると耳にしたことがありますが、全体的にそのような活動を行っているかというところまでは把握しておりません。 |
| 後藤市長 | あまり行っていないようですね。<br>そのほか、ございませんか。 |
| 兼子委員 | 先日、全国的に見てもアフターコロナから少しずつ子供の体力、運動能力は上がっているということをテレビのニュースで見まして、なるほど、やはり少しずつ子供たちが外に出て遊ぶ機会が増えているのかと思いましたが、それでも私の娘を見ていると、先ほどのグラフの全国平均を下回っている中学校の女子に該当しますが、やはり自分が思っているよりも体力が少ないのではないかと感じることが多々あります。子供が学校に行くときに持っていくリュックサックの中身が大量に詰まっていて非常に重たいので、それを背負って歩いている姿を見ると、体力が上がるのではないかと思うこともありますが、それがすぐ結果につながるというわけではないという現実を感じているところでございます。<br>先ほど御説明いただいたように、大学と協力したりなどして、いろいろと様々なイベントを企画していただいていると思いますが、市として、継続的に行えるような、直接的に体力向上につながるような取組で、提案できるようなものがあれば、積極的に実施していただければ、指針、目標にもなると思いますので、是非お願いしたいと思います。 |

| | |
|---|---|
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、兼子委員から体力向上に向けた新しい企画があれば是非提案してほしいというお話がありました。すぐに答えを出すことは難しいかもしれませんが、いま協力いただいている北翔大学の皆様からの御意見ですとか、いろいろな意見を取り入れることも一つの手かと思います。重たいかばんを背負って歩くだけでは体力向上につながらないというお話がありましたので、体力向上につながる何らかの取組、その辺りを検討してほしいと思いますので、よろしくお願いいたします。<br>そのほか、ございませんか。 |
| 麓委員 | 実は、うちの子も走り方教室に申し込んで参加したことがあります。運動が得意ではない子でしたが、プログラムがすごく考えられていて、最後まで楽しんで参加することができました。ただ、楽しい思い出にはなりましたが、それに参加したからといって「次の日から走ろう」とはならず、「やったな」という程度だったので、継続が大切だとは思いつつも家庭で続けるのはなかなか難しいと感じました。やはり友達と一緒に体を動かして、本人が楽しいと思わないと継続は難しいと思いますので、皆さんがおっしゃるとおり少しでも学校で働きかけてもらえると、良いきっかけになるのではないかと思いました。<br>また、体育館等の施設が無料化になったことで、うちの子が大麻体育館をよく利用しております。暑い夏に外で遊ぶことが少し心配なときなどは「体育館に行く」と言われると安心して行かせることができたので、とてもありがたいなと思いました。ただ、青年センターのプールに行く場合、自転車で15分から20分ぐらいかかりますが、「今日、サークルがあるから使えなかった」と言って帰ってくる日がよくありました。開放される日とされない日がホームページに載っているということを後になって知りましたが、子供に携帯電話を持たせていないので、それを自分で調べるすべがありません。その都度、施設に電話をするという対応も違和感があるので、子供自身に携帯電話やインターネットをあまり勧めたくない保護者もいるということも踏まえて、事前に体育館等の施設が開放されているのかどうかを知るすべを考えていただけると、子供同士で外に出るきっかけにもなるので、検討をお願いしたいと思いました。 |
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>ただいま、麓委員から体育施設を使える日、使えない日をわかるようにしてほしいというお話がありました。例えば、近くの体育館まで行けば、全ての体育施設がどのような状況になっているのかがわかると、無駄足になる距離が短くて済むということがあると思います。何か工夫できることをいろいろ検討してもらって次年度以降の対応をお願いしたいと思います。<br>また、走り方教室に行くと楽しく参加できた。楽しかったけれども続かない。そのとおりだと思います。今秋、野球チームの方々が、野球未経験の子供たちのために野球教室を実施してくれまして、子供たちがとても楽しそうにしていましたが、本当に続くのだろうかと思いながら見ていました。一人では続かなくても誰か友達と一緒だと続けられるということがあると思います。そんな工夫をしていくことも私たちには必要かと思います。 |
| 黒川教育長 | 蛇足になるかもしれませんが、先ほどお話しした公園で子供たちが遊ばないということについて、市の公園はボールの使用を禁止しているのかを確認したことがありますが、「市では禁止している公園は、ほぼありません」、「ほとんどが地域の方々からの苦情によるものです」とのことでした。例えば、「子供たちがうるさい」、「ボールが飛び出してきて危ない」、「車にぶつかった」などの理由で、直接、子供たちが怒られたりすると「もうあそこに行くのをやめよう」と考えてしまうところも少し懸念されます。また、かなり前からあることですが、子供が友達の家に遊びに行って、３、４人集まって一緒に遊ぶのかと思ったら別々にゲームをしているということに保護者の皆様が悩んでおります。友達と一緒に遊ぶけれども、やはりゲーム中心というところを何とかてこ入れしなければならないということから、本年、ＳＮＳ等に関する意見交換会を開催しまして、スマホ等にはまり過ぎている子供たちをどうしたらよいのかについて論議を始めているところです。 |

| | |
|---|---|
| 後藤市長 | ありがとうございます。<br>確かに、公園で遊ぶと怒られるということでは誰も公園に行かなくなると思います。これもなかなか難しい問題かと思います。公園が先なのか、人が先なのかという問題もあるでしょうし、公園の在り方ということも少し考えていかなければならないと思います。<br>皆様から、いろいろと率直な御意見、御感想をいただきました。体力の向上に当たりましては、子供たちが気軽に運動できる環境、加えて、続けられる環境が必要だと思います。この点について、スポーツ課でも少し工夫しながら検討を重ねていただきたいと思いますし、学校の中でも同じようなことが言えると思いますので、そちらも検討してほしいと思います。<br>そして、運動に関しては、子供たちだけでなく、私たち大人も定期的に運動してほしいという思いがございます。運動することで自分の体の健康を維持できるし、自分のことがよくわかると思います。そういったことについても支援を広げていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。<br>以上で、本件を終結いたします。<br><br>それでは、最後になりますが、次第の４「その他」について、本日、協議したもの以外で皆様からこの機会に御発言したい話題があれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。<br>よろしいでしょうか。（了）<br>それでは、次回の日程について、緊急で協議を要する事案がなければ、次年度の開催を考えております。その際は、改めて事務局を通じて御連絡したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。<br>以上をもちまして、本日の総合教育会議を閉会いたします。<br>どうもありがとうございました。 |